NIE実践報告

1．タイトル：**メディアリテラシーを育成する　ー単元「メディア社会を生きる」ー**

2．学校名

大阪府大阪市立昭和中学校

3．実践者名（代表者名）

植田恭子

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語科　67人（2クラス）

6．単元（本時の学習課題）名

メディア社会を生きる

7．目標(狙い)

①自分に必要な情報を主体的に読み取る。
②多様なテキストを評価しながら読む。
③情報の送り手体験を通して、メディア社会の生き方について自分の意見をもつ

8．評価の視点

①情報と主体的に向き合うことができたか。
②多様なテキストを評価・分析しながら読み解くことができたか。
③記者体験を通して、記事を書くことができたか

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

第1次・教科書教材を読む
第1時・「よむ」ということを考える。
第2時・「なんでもないよ」を読む

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

第9時・「記者体験について知る」学習活動
①新聞５紙に共通する記事を比べて読む。同じ事象を扱っていても伝えられる情報に違いがあることを知る。
②新聞記事の違いは、記事を書いた記者のフィルターを通っていることによることを学ぶ。
③実際に記者体験、情報の送り手の側に立ち、情報の創出のプロセスを体験することから「情報」について考えていくねらいを確認する。
④記者体験について知る。沖縄への修学旅行を記者の目で取材し、自分だけが知りえた情報を記事にする。
⑤教科書(光村図書　国語3年)の「新聞の特徴を生かして書こう」をもとに構想メモを書くこと、心に残ったこと、気になったことなどをメモしておくことを確認する。
⑥新聞記事を読み、記事に必要な要素を考える。
⑦5W１H(いつ・だれが・どこで・なにを・なぜ・どのように)が正確に伝わることが大切である。
⑧記者体験のポイント「よく見ること」「しっかり聞くこと」「五感で感じること」「想像すること」そして「考えること」「創造する」をおさえておく。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

メディアの送り手の側に立ち、情報の取捨選択、加工を経験した。情報は送り手の意図が反映されていることを確かめるとともに、情報の編集の難しさを体験した。2泊3日の旅であってもそれぞれに着眼点の違いは明らかであった。記者体験という表現活動を通して、それぞれに書いた記事が違うということを知り、さまざまな情報もまた切り取られたもの、編集されたものであることを実感したようである。

12．成果と課題

自分自身の考えや経験と情報が結びついたとき、情報への理解はより深いものになる。目の前の情報と現実社会との関わりを実感したときに、情報と主体的に向き合い、情報の中から自分にとって必要な情報を取捨選択しながら読むことができる。
教科書教材「メディア社会を生きる」から発展的な学習、表現活動(「わたしは記者」という送り手の側に立つ)という展開は、中学校国語科のカリキュラムに無理なく取り入れることができ、一般化の要素を見出すことができた。記録、要約、説明、論述などの言語活動に多様な学習材の一つで新聞の特性を活かしながら、